

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科
科目名称 [英語名称]	造園植栽論 [Landscape Planting Technique]				実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング
科目コード	238700	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	2年次
教員氏名	関西 剛康				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP3(1) DP3(5)	
授業概要	<p>本授業は、進歩し続ける造園空間を形成する主要素である造園植栽に関する知識とその植栽技術を学ぶものである。授業の内容は、その基礎的知識から最新の植栽技術までを対象に、都市公園や庭園(ガーデン、エクステリア等)空間の用途に応じた植栽知識やデザイン手法、そのテーマ性から計画・設計・施工・維持管理といった一連のプロセスについての総論的な講義を行います。</p> <p>また、教員は技術士(総合技術監理部門、建設部門:都市及び地方計画)やRLA(登録ランドスケープアーキテクト)、1級造園施工管理技士等の専門資格を有し、造園設計事務所(ランドスケープコンサルタント業務)において国内外の100件を超える都市公園や庭園プロジェクトに参画した20年間の経験があります。そのキャリアを含めて、教員が実際に計画設計した造園作品の具体的な事例を解説しながらも、授業を進めます。</p>						
関連する科目	<p>本授業と同時期には「庭園学」「庭園学演習」を、本授業の履修後には「世界の庭園と歴史」「敷地計画論」「敷地計画論演習」「都市緑地論」「都市緑地論演習」を受講することが望ましい。</p>						
授業の進め方と方法	<p>テキスト代わりに配布するプリント資料(第1~4章で構成、約80頁)と、パワーポイントによるスライド(私関西の計画設計した造園作品もいくつか使用)をもとに授業を進行します。履修者に順番にテキストを音読してもらい、教員が解説を行う方式で授業をします。テキスト内の重要なキーワードは穴埋め式となっており、授業進捗に伴いスライド上で示して伝えます。授業時間外には1~4章ごとに4つのレポート作成があり、復習の意味を込めて学習した内容を全般的に書き込んでもらいます。学期末には、1~4章ごとにレポート提出をしてもらい、その内容を評価に反映します。</p>						
授業計画	<p>はじめに 第01回:ガイダンス 講義全体の概要、評価方法について説明をします。</p> <p>第1章 植栽計画のプロセス 第02回:1.植栽計画の基本プロセス 第03回:2.基本構想、3.基本計画 第04回:4.基本設計・実施設計・施工、5.育成管理・維持管理 植栽計画から設計・施行・管理への流れとその留意点について学びます。</p> <p>第2章 植栽による景観構成 第05回:1.植栽による景観構成の基礎 第06回:2.植栽の景観計画 植栽による景観構成の基礎とその計画について学びます。</p> <p>第3章 テーマガーデンの植栽手法 第07回:1.カラーガーデン、2.ローズガーデン 第08回:3.フレグランスガーデン、4.シェードガーデン 第09回:5.ウォーターガーデン、6.バードガーデン 第10回:7.キッチンガーデン、8.山野草の庭、9.その他芝生の基本事項 基本的なテーマガーデンの手法について学びます。</p> <p>第4章 植栽機能について 第11回:1.緑陰植栽、2.防火植栽 第12回:3.防風植栽、4.防潮植栽 第13回:5.遮蔽植栽、6.防音植栽 第14回:7.大気浄化 基本的な植栽機能の手法について学びます。</p> <p>まとめ 第15回:纏め(造園植栽の総論) 第1~4章を振り返り、造園植栽に関する手法について総括します。</p>						
授業の到達目標	<p>1.造園植栽の計画や実施ができる専門職業人としての自覚・意欲を修得【態度・志向性の育成】 2.造園植栽の計画や実施ができる資質・能力を学び、その実践に向けた自己の課題を把握【自己管理能力・生涯学習力】 3.造園の専門職業人として、造園植栽を理解し、造園植栽の計画や実施ができる方法を修得【職業知識・技能の育成】</p>						
授業時間外の学修	<p>授業内で配布するテキスト資料や参考書等を授業前に読んでおき、さらに授業後に理解を深めるために再度精読すること。そして、各章の終了後にはレポート(第1~4章)を作成すること。また、造園学の分野がどのようなものであるかを理解するため、授業中に紹介する身近な造園空間を訪問したり、全国的著名な庭園や公園緑地に関わる資料や図版等を見ておくこと。予習復習1時間程度。</p>						
課題に対するフィードバック	<p>1.各章の提出レポートの評価(100点) 2.授業への取り組みも評価(授業態度によってはマイナス評価も行う)</p>				評価方法	<p>1.各章の提出レポートの評価(40点) 2.期末試験の結果(60点) 3.授業への取り組みも評価(授業態度によってはマイナス評価も行う)</p>	
テキスト	<p>テキストは、授業の進捗にあわせてプリントを配布(A4コピー資料は約80頁、各自で紙ファイルやクリアファイルに綴じ込むことが望ましい)。</p>						
参考書	<p>1.『緑化・植栽マニュアル』中島宏(財)経済調査会 2.『緑のデザイン』日本技術図書(株)など</p>						
備考							